

<山行記録>

山上ヶ岳 (1,719m)

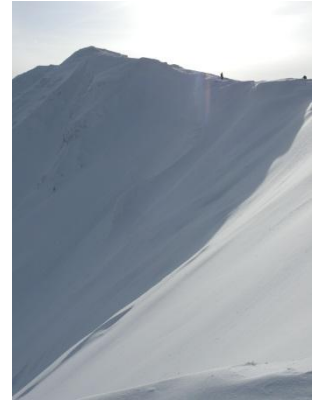
日時：2013. 1. 16 (水) 晴

岡本 (単独)

8:40 清浄大橋→9:30 一本松茶屋→11:15 同辻茶屋→12:20 上下道合流点→13:05 山頂→13:20 (日本岩→) 龍泉寺→13:40 合流点→14:10 同辻茶屋 (20分休憩) →15:50 清浄大橋

今月 13 日にモンベルツアーで大山 (右写真) に登ったが、積雪はあるものの雪が締まって歩き易く、負担感も少なく、少し物足りない気分であった。ところが、14 日には、奈良でも結構雪が降り、物足りなさ解消に新雪が期待出来る山上ヶ岳へ行くことにした。

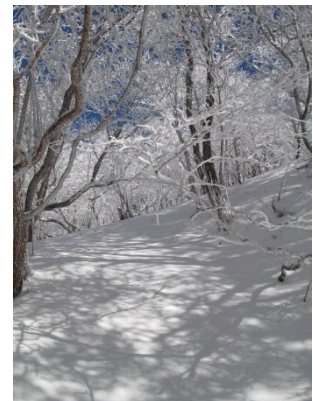
当日は冷え込んでおり、出発時点で氷点下 1 度だ。芦原トンネルを抜けると、道脇にも雪がかなり残っており、下市や吉野の山が真っ白に見える。下市を過ぎると、道路にも所々雪が残っていて、凍結している様子なので慎重に運転する。洞川温泉への道はまだ大分雪が積もった状態であったが、概ね想定範囲の時間で清浄大橋に着



いた。外気温は氷点下 8 度と、中々の冷え具合だ。

登山口から踏み跡も無く、その道の凹み具合から、どうやらドカ雪以来誰も山には入っていない様子だ。暫くは新雪を楽しみながら踏みしめていたが、1,100m 辺りにまでくると、普通のところで 10~20 cm 沈み、雪だまりでは膝近くまで沈み込む。

漸く一本松茶屋に着き、ここでスノーシューを装着する。天気は快晴で、気分がとても清々しい。鹿とウサギの足跡のようなものが所々残っているが、踏み跡の無い新雪を踏みしめる気分は爽快だ。また、全体の積雪量はさほど多くなく、登山道を見失う心配もなさそうだ。枝が道を塞いだり、落雪も少ない。スノーシューも 10~20 cm の沈み込みで、順調に標高を稼ぐ。しかし、流石に七曲がり辺りになると雪も深く、少し時間をロスする。



尾根にでると同辻茶屋 (左写真) だ。シャツが蒸れて少し気持ち悪いが、快晴で気分は爽快だ。ここで少し行動食を取り、防寒具を身につける。好天と言えども、流石に尾根に出ると少し風も強く、気温も低く、頬も少しひりひりしてくる。ここから陀羅尼助茶屋まで、登山道は雪に埋もれているものの、ルートを遮断するような雪の塊もなく、無難に歩く。問題は、陀羅尼助茶屋を出てからのルート選択だ。今日は、全体の積雪量も多くないことから、夏山下山ルートをそのまま進む。

この辺りは、積雪が多いとルートが遮断されてしまう。鐘掛岩を過ぎた、登り道と下り道の合流点まで、岩肌を沿うように、チェーンの柵や階段が続く。雪が無ければ 10~15 分程度で

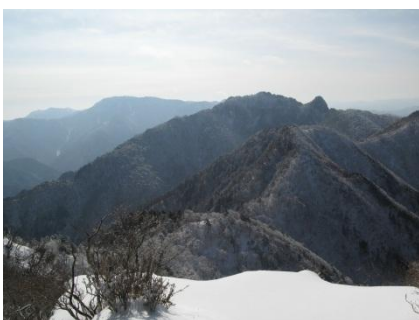
歩けるところではあるが、雪が深くなると急斜面のトラバースになり、雪も流れ易く、谷へ落ちそうになる。今日は、ルートは分かる状態だが、階段部分は完全に新雪に埋もれ、チェーン柵も所々雪の下だ。

慎重にルートを選び進む。水平部分は比較的歩き易かったが、階段部分はラッセルを余儀なくされる。ストック2本で雪を押さえ滑り止めにし、膝で雪を押さえ少しずつ登っていく。大体一つの階段で10分程度ラッセルし、少し休憩し次ぎの階段部分へと進む。4回程度やると尾根筋の合流点に達する。今日は天気が良く、見通しも利くことから、苦しいものの、気分的にはめげることなく、比較的順調にこなせた。冬にしては重い雪であったが、根雪が少ないのが幸いしたのかもしれない。1時間弱でこの難所を過ぎる。



もう一息だ。

宿坊の上まで来ると台高の山々が綺麗に見える。山頂までもう一息だ。最後の大峰山寺の門をくぐると少しなだらかな坂を登ると一番上の講堂前広場に着く。一息つき山頂の標識のあるところまで行く。



頂上は、意外に雪が少なく、樹氷も殆どない。雪の多い厳冬期には、小型のモンスターのような樹氷が見られるのだが、今日は少ない。しかし、新雪は深くスノーシューを履いても結構歩きにくい。頂上からは、弥山や稲村ヶ岳方面の景色を楽しみながら、日本岩の方を回りながら宿坊の方へ戻る。

下りのスノーシューは尾根の広いところでは快適なのだが、岩肌に沿った急な下りは危険だ。他に登山者はいないので谷



に滑り落ちると大変だ。慎重にゆっくりと下って行っただが、最後の急峻な下りは迂回することにした。やはり、下りはアイゼンの方が安全だ。心配の無い同辻茶屋まで戻ったところで食事を取る。少し疲れたが、久しぶりにたっぷり汗もかき、何となく気分もすっきりした。しんどいが、適量の新雪は歩いた実感もあり、中々いいものだ。以上